

そ  
う  
が  
み  
く

後期号 (No. 39)  
23.3.24 発行  
現職研修委員会  
総合的な学習部編集



## ESDの視点に立った授業づくりを

総合的な学習部長 小嶋利之

「明日の授業は、何を言ってもいいよと、先生が言ったけど、一番初めに言うとしたら、何を言ったらいいのかわかりません。一番初めの意見は、とても大切です。授業全体をひきずることになるからです。私は一番初めに意見を言いたい。でも、何を言ってもいいのに、どうしてこんなに迷ったりするのだろう。つけたしや、質問は、かんたんなのに。」

これは、小学六年生だったA子の日記である。そのA子が先日、就職が決まったことを報告に来た。彼女にとって一番の思い出は、やはり授業のことであった。「小学校の時の総合的な学習の授業が、楽しかった。答えが分からない。教科書にない。先生も、今日はこれをやるとは言わない。自分たちで意見を出し合うなかで、授業が決まって行った。それが楽しかった。」と、当時をふり返っていた。与えられた課題の勉強ではなく、自分たちで課題を発見し、探究した授業が、今でも忘れられないようだ。

小学校では今春から、中学校ではその翌年から新学習指導要領が完全実施となり、総合的な学習の時間数は削減される。しかし、私たちは、A子が『楽しかった』とふり返るような探究活動の充実をさらに図っていかねばならない。それは、ただ単に『楽しい』

だけの授業づくりではない。総合的な学習の授業が、アイデンティティ（自分らしさ）を形成する、すなわち、生き方を変えてくれるような学びを、子どもたちと創っていかねばならない。

岡崎の教育は、『永久的な世界平和』を希求し、行動できる岡崎の子どもを育てようとしている。具体的に言うのならば、『①ESD（持続可能な発展のための教育）』を行い、『②話せる英語』を身にと話し、かかわり合うために『③話せる英語』を身に付ける。そして、文化や思いの違いを認め合う心を育むために『③岡崎の心』を学ぶ。この3つの柱をリンクさせた教育を実行し、世界をリードする岡崎の子どもを育てるのである。

ここで登場するESDとは、2002年の国連サミットで日本から提案した国際運動で、持続可能な未来をつくるための教育である。ESD教育の第一人者である立教大の阿部教授は、ESDについて次のように述べている。

「私は、ESDを総合的な環境教育と呼んでいる。これから先も世界中の人々が、幸せに暮らし続けるために、地球環境はもちろん、民族対立や戦争をなくし、人権を尊重し、人口問題や食糧問題にも取り組んで、様々な問題を解決し、平和な社会を作っていかなければならない。そのためには、知識を詰め込んで入試で結果を出すという教育ではなく、これからの世の中を

どうしていくのかを、一人ひとりが自らの課題として考え、考えの異なる人たちとも協力して、実際に行動できる人を創っていく教育が必要なのである。身近な問題にかかわって、いろいろな考えの人と議論して、協力して問題解決を行う体験的教育、それがESDである。」

また、学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究(国立教育政策研究所中間報告)によれば、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度として、①批判的に思考・判断する力 ②未来像を予測して計画を立てる力 ③多面的、総合的に考える力 ④コミュニケーションを行う力 ⑤他者と協力する態度 ⑥つながりを尊重する力 ⑦責任を重んじる力 をあげている。

総合的な学習の時間は、現代社会の横断的な課題を探究的に学習する点や、問題状況とのかかわりで自己の生き方を考える点などで、ESDと深く関連している。ESDの視点に立った総合的な学習の授業では、その学習過程において、自分と他者とが時間と場を共有しながら学び合い、つながり合うことが大切である。他者との対話やコミュニケーションの大切さを感じ取ったり、他者の活動に共感したりしながら、それらに必要な能力や態度を身につけ、新たな考えや行動を生み出していく。そして、身近な地域だけではなく、国内や海外とのつながりを図りながら、多様な立場や世代の人々とのつながりが体験できる場を工夫していくことも必要となるであろう。

今、私たちは、教師の手の内を明かして教えるのではなくて、教師の手のひらから飛び立って、将来、教師が教えることができない学びができるようにしかけてやらなければいけない。それが、持続可能な社会に向けた総合的な環境教育であり、ESDの視点に立った総合的な学習の授業なのであろう。

# 研究報告

## ◆第8次教育研究全国集会 参加者報告

本年度、県教研が台風のため中止となり、レポートでの厳正な選考の結果、岡崎代表の竜海中学校千賀しのぶ先生が全国教研に参加されました。会議内でも、その実践の確かさを提案され、大きな評価を得ることができました。そして、その様子についての報告をいただきました。



千賀 しのぶ先生 (竜海中)

### ・Team

竜海 今地球のためにできること  
企業のエコ活動成功の秘密をさぐれ

一月二十二日から二十四日、茨城県にて教育研究全国集会が開催され、環境学習の分科会に参加させていただきました。

分科会では、二十四本のレポートが寄せられ、さまざまな地域や自然とのかかわりの中で取り組まれた環境学習の実践が報告されました。

まず、エネルギーの問題として、原子力発電と人間のかかわりについて話し合われました。原子力発電は、石炭や石油の使用量が火力発電に比べて少なく、二酸化炭素の排出が少ないため、将来のエネルギー源として注目されています。しかし、大きな危険性ははらんでいます。その危険性を具体的に学習させることで、子どもたちに、将来におけるエネルギー供給のあり方を考える力を身につけていくべきだと話し合われました。

次に、フードマイレージのゲームや劇、農業との

かかわりなど、さまざまな手法から行われた環境学習の実践について話し合われました。環境教育を進めるにあたり、子どもたちに多面的な情報や知識を与え、環境への対応を考える必要があると確認されました。また、一人の生活者として、環境とどのようにかかわって生きていくのかという点まで考えていきたいと助言をいただきました。

三つ目として、昆虫や川などの自然とのふれあいを扱った実践が報告されました。現代は、身近に自然があっても、子どもたちは十分にはふれあえていない状態です。だからこそ、学校が自然とふれあうフィールドを作ることには価値があります。自然と親しむことを通して、子どもたちは、自然のすばらしさを体感し、これを脅かすものから自然を守っていくという発想が生まれると確認されました。今後の課題として、自然環境との出会わせ方を工夫すること、自然とふれあうことを通して子どもたちどんな力をつけていくのか考えることがあげられました。

## ◆「岡崎総合的な学習研究会」報告

美合小学校 船越 学  
二月二十六日(土)午後二時より、愛知県野外教育センターにて、愛知教育大学の久野弘幸先生、名古屋学芸大学の三浦浩子先生、允文館塾長の福應謙一先生を講師にお招きして、



豊富な資料と的確な御指導から学ぶ参加者の皆さん

第四回「岡崎総合的な学習研究会&生活科授業道場」が次の内容で、開かれました。

### 一 実践報告会

(一) 竜谷小学校 實松勇太先生 一年生「自然とのふれあいを通して気付きを引き出す」

・季節ごとに、公園探検に出かけて自然に浸り、「お気に入りの自然」になったり、自然と人を組み合わせたお話を作ったりした。

(二) 幸田町立坂崎小学校 池田和博先生 六年生「地域に学び、感謝し、貢献しようとする心豊かな児童の育成」

・里山を守る人や自然とかかわりながら、地元の木を使った物づくりや製作したものを活かして地域に働きかける活動に取り組んだ。

### 二 授業分析

富山市立堀川小学校 五年生社会科の授業

授業記録と授業の様子を記録した映像資料をもとに、子どもの姿を通して授業分析をしたり、久野先生から授業の中の子どもの見取り方をご指導頂いたりしました。

## 実践記録のご紹介

### ☆ 岡崎市環境学習プログラム

環境教育研究委員会より実践事例集「活用と展開」が発刊されます。各学校で活用ください。

☆ 総合的な学習の時間 実践記録集・指導案集

昨年度より、ウェブ掲載としました総合的な実践記録集が本年度も掲載されます。掲載場所は、

<http://ems.oklab.ed.jp/sougou/>

のトップページから、左側のメニュー中「実践記録集」をクリックして、希望の年度をご覧ください。

また、本年度指導員訪問が行われた学校については指導案がまとめて収集してあります。ご覧になりたい場合は六名小柴田まで御連絡ください。他の実践を参考に、子どもたちにとってよりよい実践研究を進めていきましょう。